

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-25

能楽研究所彙報(二〇〇〇年四月～二〇〇一年三月)

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

能楽研究 : 能楽研究所紀要

(巻 / Volume)

26

(開始ページ / Start Page)

187

(終了ページ / End Page)

200

(発行年 / Year)

2002-03-30

能楽研究所彙報(二〇〇〇年四月～二〇〇一年三月)

〔紀要〕『能楽研究』第二十五号の発行

二〇〇一年三月二〇日付で、研究所紀要『能楽研究』第二十五号を発行した。A5版二二六頁。内容は次の通りである。明治能楽界の光と影

「大鼓金春流」考(中)

—金春三郎右衛門家の歴代、他—

「盤渉」の習いと小書の成立

江戸時代の長崎の能楽

上杉家の能面

—野上ノートの紹介を中心に—

研究展望(平成10年)

能界展望(平成11年)

能楽研究所彙報(平成11年度)

〔第二十二回観世寿夫記念法政大学能楽賞〕

第二十二回観世寿夫記念法政大学能楽賞の受賞者に、平成一二年一二月四日に開かれた選考委員会(委員は、金春惣右衛門・馬場あき子・西哲生・表章・田中義教(法政大学理事))

倉田 喜弘

表 章

山中 玲子

表 きよし

西野 春雄

岩崎 雅彦

西野 春雄

西野春雄・山中玲子)の推薦に基づいて、山本孝氏と味方便氏が選ばれ、一二月七日付で清成忠男総長名義の通知を各方面に発送した。贈呈理由と受賞者の経歴は次の通りである。

〔受賞者〕 山本孝(やまもと・たかし)氏

〔贈呈理由〕 作品の内面世界を表現しようとする真摯な情熱と的確な技術に支えられた氏の大鼓は、以前よりシテ方からの高い信頼を得てきたが、特に近年の舞台成果は著しい。関西での大曲上演に欠かせない中核的存在であるとともに、後進の育成にも尽力し、広く能楽の発展に寄与している。

〔主な経歴〕 大倉流大鼓方。日本能楽会会員。一九三六(昭和11)年9月18日、故山本敬一郎の次男として大阪に生まれる。父及び故亀井俊雄に師事。初舞台は50(昭和25)年5月、大倉家祖先祭での舞囃子(屋島)。57年に(翁・石橋)、58年に(乱・道成寺)を披き、64年には(道成寺)の大鼓で大阪文化祭奨励賞受賞。その後71年に(卒都婆小町)、81年に(姨捨)、82年(鸚鵡小町)、88年(檜垣)、98年(関寺小町)と老女物もすべて披曲。作品の内面を表現しようとする的確な演奏に、東西のシテ方からの信頼度も高く、特に関西における大曲の上演には欠かせない存在となっている。97(平成9)年には、大鼓

山本同門会の〈景清〉〈班女〉の大鼓により大阪文化祭賞受賞。

また、関西の囃子方の中核として後進の指導・育成にも力を注ぎ、観世流大鼓の再興(86年)にあたっても力を尽くした。同流の後継者たる守家由訓氏を内弟子として受け入れ指導するなど、自流内にとどまらず広く能楽界全体の発展のために尽くす氏の姿勢は、広く信望を集めている。

日本能楽会理事。四役審議会役員。大阪能楽養成会講師。長男哲也氏が後継者。

〔受賞者〕 味方健(みかた・けん)氏

〔贈呈理由〕 氏の近著『能の理念と作品』は、能楽師でありかつ能楽研究者でもある氏が多年にわたって発表してきた、独自の方法による研究成果の集成であり、余人には真似ることのできない優れた業績である。能界と学界の橋渡し役としての尽力も、高く評価される。

〔主な経歴〕 観世流シテ方。能楽研究者。一九三二(昭和7)年8月12日京都に生まれる。少年期より河村兄弟の稽古を受け、65(昭和40)年、十二世林喜右衛門の内弟子となる。74(昭和49)年独立。91(平成3)年より日本能楽会会員。立命館大学文学部、龍谷大学文学部、同大学院等で、長年講師を務め、芸能史・能作史・能楽論や能本の講読などの授業を行う一方、演者としての経験を生かした方法論によって、作品論・演出史を中心に数々の論考を発表、演者と研究者とをつなぐパイプ役として活動を続けてきた。岐阜県郡上郡に伝わる番外曲〈くるす桜〉の改作・舞台化や、廃曲〈長柄の橋〉復曲

への参画も、そうした活動の一つである。

98(平成10)年、長年の研究成果を集大成した『能の理念と作品』により、法政大学より博士(文学)の学位を取得。同論考は99年和泉書院より刊行された。その他、『邦楽百科辞典』(音楽之友社)、『能・狂言事典』(平凡社)の項目執筆や、『由良家囃子伝書』の翻刻(『庶民文化資料集成Ⅲ 能』三一書房)等、著作多数。能の解説・講演、月刊『能』の編集・執筆活動等を通して能楽の普及・啓蒙にも努めている。二〇〇〇年、京都市芸術文化協会賞を受賞。

京都能楽会常任理事。子息の玄・團両氏もシテ方観世流の能楽師。

なお贈呈式は、次に記す催花賞と合わせて、平成一三年一月一六日(火)午後六時から、赤坂プリンスホテルで開かれた。受賞者をはじめ、選考委員、法政大学関係者、能楽関係者ら六十余名の出席のもとに、清成総長から賞状と賞金(三十万円)が贈られ、レセプションに移って歓談の後、午後八時過ぎに散会した。

〔第十二回催花賞〕

〔受賞者〕 野村又三郎(のむら・またさぶろう)氏

〔贈呈理由〕 柔らかみの中に粘り強さを秘めた氏の芸は、近年、円熟の境に達し、その洒脱な演技と相手の力を引き出す包容力によって多くの舞台成果をあげている。名古屋を本拠として、和泉流では少数派となった野村派の伝統を守り続け、

後継者を育て上げた功績も大きい。

〔主な経歴〕 和泉流狂言方。一九二一(大正10)年3月31日、十一世野村又三郎信英の三男として東京に生まれる。野村派野村家は、江戸時代には京都在住のまま尾張徳川家と肥後細川家お抱えの狂言方であった家柄。本名、信廣。父に師事。初舞台は4歳(一九二五年2月)で、(舁(あかり)のシテ。その後、16歳で(三番叟)、17歳(那須語)、18歳(釣狐)、19歳で(花子)と立て続けに披露、一九四二(昭和17)年入隊。49年シベリアから復員し、50年に十二世野村又三郎を襲名した。59年に祖父・父とも稽古に向いたことのある名古屋へ移住し、以降、名古屋を中心に活躍する。

東京でも三宅派の野村派など和泉流他家と共演することも多く、相手の力を十二分に引き出す確かな力量と包容力には定評がある。82年度(第37回)芸術祭で優秀賞を受賞した(花子)をはじめ、氏の演技と芸術格によって成功した舞台は枚挙にいとまがない。近年所演の(毘沙門風流)(庵の梅)(枕物狂)など、品格があり洒脱な芸風は当代随一といわれる。また、二〇〇〇(平成12)年には数え80歳で(釣狐)を演じ、若者の狐とは違った、枯淡、円熟の境を示して評判となった。

後継者の小三郎氏をはじめ後進の育成にも成功し、又三郎家の存在感を高めている。長年にわたり名古屋と東京で「やるまい会」を主宰。能楽協会理事・名古屋支部長を歴任し東海地区の能楽界の発展にも寄与。67年より重要無形文化財総合指定。92年勲五等双光旭日賞。趣味は観劇、映画鑑賞。

なお贈呈式は、前記の能楽賞と合わせて、平成一三年一月一六日午後六時から赤坂プリンスホテルで行われた。

〔第五回法政大学能楽セミナーの開催〕

第五回を迎えた能楽セミナーは、十月一九日から十月二六日まで、毎日午後六時三〇分から一講義(九〇分)、全六日間で開催された。今回も受講者の要望を考慮し、平日夜の実施となった。テーマは、「風姿花伝六百年 世阿弥に学ぶ」として六日間の題目と講師は次の通りである。受講者は百名を越える日もあり、連日大変盛況であった。

- 1 世阿弥の詩魂 馬場あき子(歌人)
- 2 世阿弥の作劇術 味方 健(能役者シテ方観世流)
- 3 『風姿花伝』の不思議な沈黙 ジェイ・ルービン(ハーバード大学教授)
- 4 世阿弥に学ぶ 西野春雄(能楽研究所所長)
- 5 世阿弥の音楽 横道萬里雄(東京国立文化財研究所名誉研究員)
- 6 世阿弥の思想 竹本幹夫(早稲田大学教授)

〔能楽講座への協力〕

法政大学エクステンション・カレッジは広く社会に開かれた大学を目指すことを目的に一九九八年に開校され、活動を続けている。能楽研究所もこれに協力し、「能楽講座」初めでの能・狂言」を開講した。一九九九年度に第二・三回を

行い、好評だったのでシリーズとして二〇〇〇年度は第四・第五回を開講した。講義だけでなく、舞台鑑賞、能楽師による実技を交えて、初めて能・狂言に接する人も楽しみながら理解できるように解説し、その魅力を紹介した。

また、エクステンション・カレッジおよび楽劇学会と共催で、一二月二〇日に映画特別鑑賞会「映像が語る20世紀の名手たち」を企画し、鴻山文庫蔵『名家の面影』を上映した。プログラム・ディレクター 西野春雄(能楽研究所所長)

「ボアソナード・タワー竣工記念能への協力」

四月二五日ボアソナード・タワー竣工記念能が同タワー26階スカイホールで催され、能楽研究所も企画段階から協力した。当日の演目は、「翁」と「羽衣」。観世寿夫記念法政大学能楽賞(一九九四年)の受賞者である友枝昭世・山本東次郎両氏をはじめ、当代を代表するメンバーによる上演を、招待者・学内外合わせて二百余名が鑑賞した。

「大学創立一二〇周年記念・図書館一二〇周年記念事業への参加・出展」

九月二九日～一〇月一〇日ボアソナード・タワー26階で開催された「目で見ると見る法政大学の歴史と一二〇年の歩みの資料展」に出展した。主な出展資料は次のとおりである。

二曲三体人形図・拾玉得花・明宿集・金春元安筆謡本・室町末期筆観世流百番謡本・野上博士旧蔵車屋謡本・光悦謡

本(上製本)・小鼓打ち宮増親賢画像・童舞抄・舞台之図・天正狂言本・永禄十一年織田信長朱印状・弘化勸進能興行絵巻・『能楽研究』等その他、研究所刊行物

「図書・資料の寄託」

二〇〇一年三月、中藤健三氏より、岳父の能画家・飯塚正賢画伯愛蔵の狩野春湖筆『能御絵鑑』二帖(能絵一五〇枚)の寄託を受けた。江戸中期の演出資料としても興味深い資料である。

「研究・調査活動」

「鴻山文庫蔵能楽資料解題」の作成

故江島伊兵衛氏の御遺族から寄贈された「鴻山文庫」の解題作成は、二〇〇〇年度も能楽研究所の最優先業務の一つであり、引き続き同文庫蔵資料の調査・研究が進められた。すでに刊行の『鴻山文庫蔵能楽資料解題・上』(謡本)、『同・中』(注釈書・伝書・故実書)に続き、下巻には「型付・囃子付、狂言、史料、図録、活字本、雑誌、レコード・フィルム、その他」を収めることになる。各担当者による草稿の見直しと並行して、ボアソナードタワーへの移転に伴い全資料の点検と、再分類等も行った。

中世から近世・近代にいたる都市と能楽の関係についての総合的研究

標記の研究課題に対して、科学研究費補助金(基盤B)が交

付された(研究期間平成11～14年度)。同課題は、表章(法政大学名誉教授)前所長を研究代表者とし、研究所が中心となって進めるものであり、全国の能楽研究者の協力のもと、全国各地の能楽資料を調査・収集し、地方能楽史の体系的な位置づけを行うことを目指している。二〇〇〇年度は、東北・中部・中国・九州地方等を中心に調査を進めた。

能楽資料の調査

金沢佐野家蔵の能楽資料を調査し、仮目録を作成した。かねてより西野所長が予備調査を行っており、本調査と仮目録作成は、一月二日から二三日の三日間、大学院博士課程学生の協力を得て、集中的に行った。

能楽史研究会

一九九八年六月より始めた「番外曲(および遠き曲)を読む会」(担当曲を決め輪読)を継続した。能楽研究所移転後の資料整理のため六月より再開し、毎回、能楽研究所会議室で行った。

二〇〇〇年度開催の年月日と発表者・担当曲を列記しておく。

6月28日	延広由美子	鞠物狂
7月27日	島村真智子	濡衣
11月30日	住吉晴子	愛寿
12月21日	佐藤裕子	玉水
2月28日	西瀬英紀	富士山

〔所員研究業績〕(Pは能会パンフレット)

西野 春雄

『能楽史事件簿』第六講 横浜能楽堂編 岩波書店

12年6月43頁

Twofold Structure in No Expression

“JAPANESE THEATRE AND THE INTERNATIONAL STAGE” BRILL 12年12頁

『演者と観客を結んだ『長柄の橋』の成功』

『観世』12年6月 2頁

『さすが恩愛の、故郷の方ぞ恋しき』

『片山九郎衛門の会々報 No.63号 東京公演特集』P

12年10月3頁

『彩色下の『衆人愛敬』』『文学』岩波書店 12年11月7頁

『上杉家の能面―野上ノートの紹介を中心に―』

『能楽研究』25号 13年3月 31頁

能界展望(平成十一年) 『能楽研究』25号 13年3月 16頁

『口頭発表・講演ほか』

『在欧能楽面』第9回欧州日本研究協会(EAJS)大会

ラハティ(フィンランド) 12年8月

『世阿弥に学ぶ』第五回法政大学能楽セミナー 12年10月

『世阿弥に学ぶ経営者の心』法政財界人倶楽部 12年11月

山中 玲子

『軍記物語と芸能・演劇―平家の能をめぐって―』

軍記物語研究叢書1 『軍記物語とその周縁』 汲古書院

12年4月 18頁

「あの世から振り返って見る戦物語」

『軍記物語とその劇化』 『平家物語』 から 『太閤記』 まで

臨川書店 12年10月 29頁

「初期花伝時代のシテ登場段」

『文学』 岩波書店

12年11月 7頁

「『盤渉』の習いと小書の成立」

『能楽研究』 25号 13年3月 34頁

「口頭発表・講演ほか」

Variant Stage Directions (Kogaki enshutsu) and Innovation

in the Noh of Kanze Motoakira (1727-74)

フィンランド ラハティ E A J S 12年8月

Variant Stage Directions (Kogaki enshutsu) in the mid-Edo

period 合衆国 シカゴ A A S 13年3月

竹本 幹夫

対訳で楽しむ 『安宅』 『高砂』 檜書店 12年5月 37・27頁

『能楽史事件簿』 第四講 横浜能楽堂編 岩波書店

12年6月 43頁

対訳で楽しむ 『清経』 『安達原 黒塚』 『鉄輪』 檜書店

12年8月 25・25・21頁

「『花伝』の成立をめぐる諸問題」

『文学』 岩波書店

12年11月 13頁

「座談会」 『花のゆくえ』 『文学』 岩波書店 12年11月 21頁

「能・狂言と軍記および戦語り」

軍記物語研究叢書12 『軍記物語と芸能』 汲古書院

12年11月 20頁

「新収資料紹介 『観世音御太夫伝書第四卷断簡』 一卷」

『早稲田大学図書館紀要』 48号 13年3月 26頁

対訳で楽しむ 『鞍馬天狗』 『土蜘蛛』 『杜若』 檜書店

13年3月 27・23・23頁

岩崎 雅彦

「証言・能楽史」能を見た人々の記録 72〜83

『国立能楽堂』 12年4月〜13年3月 各1頁

「凱陣八島」と「出世景清」―能「安宅」の撰取という観点

から― 『芸能史研究』 150号 12年7月 20頁

表 きよし

各地の狂言役者 『能と狂言』 31号 12年11月 1頁

観世大夫元章と 『風姿花伝』 『文学』 岩波書店

12年11月 9頁

江戸時代の長崎の能楽 『能楽研究』 25号 13年3月 47頁

橋本 朝生

「項目執筆」 「大蔵虎明」他、全6項目

『日本史人物辞典』 山川出版社 12年5月

「逢坂という所と神」 『世阿弥忌』 研究セミナー つうしん

4号 12年6月 3頁

「狂言と茶」 茶道学大系第九卷 『茶と文芸』 淡交社

13年2月 28頁

〔蔵書の出品・撮影〕

- ① 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館企画展「朝倉氏と戦国を生きた芸能者たち」(7・27～9・10 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)に、『反古裏の書』他4点を出品した。
- ② 徳川美術館開館六十五周年記念秋季特別展「尾張徳川家初代義直生誕四百年徳川義直と文化サロン」(9・23～11・5 徳川美術館)に、『光悦謡本(上製本・特製本)』他7点を出品した。
- ③ 文化庁主催海外展「本阿弥光悦」(7・29～10・29 フィラデルフィア美術館)に、『光悦謡本(色替り異装本)』を出品した。
- ④ 芦屋市立美術館特別展「伊勢物語と芦屋」(10・17～12・11 芦屋市立美術館)に、『伝松平伊豆守旧蔵謡本』他9点を出品した。
- ⑤ 国立能楽堂特別展「江戸時代の能」(11・17～12・15 国立能楽堂)に、『將軍宣下御能目録』他14点を出品した。
- ⑥ 津村禮次郎著「能がわかる100のキーワード」(小学館)に、『二曲三体人形図』の写真掲載を許可した。

〔雑報〕

◇片桐登氏兼担所員に就任

第一教養部教授片桐登氏が一九九九年度国内研究員の任期を終え、兼担所員に復帰した。

◇安東祐希氏兼担所員に就任

第一教養部助教授安東祐希氏が一九九九年度在外研究員の任期を終え、兼担所員に復帰した。

◇橋本朝生氏兼担所員に就任

山梨大学教育人間科学部教授の橋本朝生氏が四月一日付で兼担所員に就任した。氏は狂言研究の第一線で活躍しており、今後の研究所活動に対して種々の貢献が期待される。

◇能楽振興基金委員の交替

一九八八年能楽振興基金発足以来、委員としてお力添えいただいたてきた福田安男氏(元国立能楽堂主幹)が一九九八年をもって退任した。多年にわたるご尽力に感謝申しあげる。後任は小林責氏(武蔵野女子大学名誉教授)。

◇倉本綾子職員の定年退職

一九九五年から六年間にわたって当研究所の事務職員として勤務した倉本綾子氏が、二〇〇一年三月を以って定年退職した。氏は研究所の移転(80年館からボアソナード・タワーへ移転)、研究所所蔵学術資料のデータベース化と公開について多大なる貢献をした。多年のご尽力に感謝する。

〔二〇〇〇年度の所員名と関連委員名〕

◎所員

所長	文学部教授	西野 春雄
専任所員	助教	山中 玲子
兼担所員	第一教養部教授	片桐 登

兼任所員 法学部教授

兼任所員 文学部教授

兼任所員 第一教養部助教

兼任所員 国際文化学部助教

兼任所員 早稲田大学教授

兼任所員 文学部兼任講師

兼任所員 国士館短期大学助教

兼任所員 山梨大学教授

事務

◎運営委員

議長 所長

委員 専任所員

委員 兼任所員

委員 兼任所員

委員 兼任所員

委員 兼任所員

委員 兼任所員

◎法政大学能楽振興基金委員

委員長 理事(研究所担当)

委員 常務理事(財務担当)

委員 武蔵野女子大学名誉教授

委員 千歳第一病院理事長

委員 学識経験者(法政大学名誉教授)

委員 能楽研究所所長

飯田 泰三

堀江 拓充

安東 祐希

鈴木 靖

竹本 幹夫

岩崎 雅彦

表 きよし

橋本 朝生

倉本 綾子

西野 春雄

山中 玲子

片桐 登

堀江 拓充

飯田 泰三

安東 祐希

鈴木 靖

田中 義教

稲田 太郎

小林 責

服部 康治

表 章

西野 春雄

委員 能楽研究所専任所員

◎法政大学能楽賞委員

委員長 理事(研究所担当)

委員 常務理事(財務担当)

委員 能楽研究所所長

委員 能楽研究所専任所員

◎法政大学能楽賞選考委員

委員長 理事(研究所担当)

委員 能楽評論家

委員 太鼓方金春流宗家

委員 歌人

委員 能楽研究者

委員 能楽研究所所長

委員 能楽研究所専任所員

山中 玲子

田中 義教

稲田 太郎

西野 春雄

山中 玲子

田中 義教

西 哲生

金春惣右衛門

馬場あき子

表 章

西野 春雄

山中 玲子

〔受贈図書〕

単行本〔受入順〕。*印は寄贈者。書名・著者・発行年

月・発行者の順。著者および編者が発行して
いる場合は、発行者は省略)

『我忘吾』二世金剛巖舞台写真集 *金剛永謹監修

平12年4月 金剛宗家

『日本の芸術論―伝統と近代―』 神林恒道編

平12年4月 ミネルヴァ書房 *天野文雄

『日本古典演劇 近世文献目録 一九九八年版』

園田女子大学近松研究所編 平11年12月 *和泉書院

『柳川歴史資料集第四集 柳川新報記事目録I』

柳川市史編集委員会編 平12年3月 *柳川市

『調べ学習日本の歴史 金閣・銀閣の研究』玉井哲雄監修

平12年4月 *ポプラ社

『特別展 古九谷 珠玉の小品』*MOA美術館 平11年8月

『弘安書札礼の研究 中世公家社会における家格の桎梏』

百瀬今朝雄 平12年5月*東京大学出版会

『金沢能楽会百年の歩み上番組集成』金沢能楽会設立百周年

記念事業実行委員会編 平12年3月 *金沢能楽会

『現代能楽師論』長尾一雄 平12年4月 *能楽書林

『狂言台本を主資料とする 中世語彙語法の研究』

*小林賢次 平12年7月 勉誠出版

『新「ノ」』と言わない能』村木泰仁

『黒川能狂言百番』重田みち・正田夏子

12年6月 *能楽ジャーナル社

『大漢和辞典 卷一〜十二・索引』諸橋轍次

昭30〜35年 大修館書店 *表 章

『能楽史事件簿』横浜能楽堂編 平12年6月 *岩波書店

『天河狂言』木村正雄編 昭56年7月 天河狂言保存会

*表 章

『芸能の科学』*東京国立文化財研究所芸能部編 平12年3月

『浄蔵貴所集成』*室山源三郎編 平12年7月

古川柳電子情報研究会

『平成9、10、11年度科学研究費補助金(基盤研究(C))(2)

地方に残る雅楽・能楽の古楽器研究』研究成果報告書

平12年3月 東京国立文化財研究所 *高桑いづみ

『対訳でたのしむ 道成寺』三宅晶子 平12年5月*檜書店

『対訳でたのしむ 羽衣』三宅晶子 平12年5月*檜書店

『対訳でたのしむ 井筒』三宅晶子 平12年5月*檜書店

『対訳でたのしむ 安宅』竹本幹夫 平12年5月*檜書店

『対訳でたのしむ 高砂』竹本幹夫 平12年5月*檜書店

『対訳でたのしむ 天鼓』三宅晶子 平12年8月*檜書店

『対訳でたのしむ 葵上』三宅晶子 平12年8月*檜書店

『対訳でたのしむ 安達原・黒塚』

竹本幹夫 平12年8月*檜書店

『対訳でたのしむ 鉄輪』竹本幹夫 平12年8月*檜書店

『対訳でたのしむ 清経』 竹本幹夫 平12年8月*檜書店

『世阿弥』 *東山緑 平11年10月 東方出版

『ようこそ能の世界へ 観世鍊之亟 能がたり』 観世鍊之亟

平12年7月 暮しの手帳社 *鍊仙会 観世暁夫

『新字源 改訂版』 小川環樹 西田太一郎 赤塚忠編

平11年12月 角川書店 *金春安明

『軍記物語とその劇化』 *国文学研究資料館編

平12年10月 臨川書店

『軍記物語とその劇化』 国文学研究資料館編

平12年10月 臨川書店 *山中玲子

『THE ARTS OF HON'AMI KOETSU』

*文化庁文化財保護部美術工芸課編

平12年9月 フィラデルフィア美術館

『近代能楽研究の先達 横山柚人の歲月』 坂田昭二

平12年9月 *坂田 泰

『世阿弥・禅竹 芸の思想・道の思想Ⅰ』 *表章 加藤周一

平7年9月 岩波書店

『世界の中の能』 法政大学能楽研究所編 昭57年3月

法政大学出版局 *西野春雄

『朝倉氏と戦国を生きた芸能者たち』

*福井県立二乗谷朝倉氏遺跡資料館編 平12年7月

『万葉集東歌・防人歌の心』 *阪下圭八

平13年1月 新日本出版社

『岩崎久人「面ヲ打つ」』 *菅佐原智治 平12年11月

アーテックス博進堂

『氏家 今宮明神遷宮700年 中世社会と祭祀』

*ミュージアム氏家 平12年9月

『江戸時代の能 二〇〇〇年特別展示』

国立能楽堂調査養成課調査資料係 平12年11月

*日本芸術文化振興会

『伊勢物語と苜屋』 片桐洋一監修 平12年10月

*苜屋市立美術博物館

『仙台市博物館調査研究報告 第20号』 *仙台市博物館

平12年3月

『舞台芸術交流年鑑 '99』 *国際舞台芸術交流センター編

平12年3月

『狂言じゃ、狂言じゃ!』 *茂山千之丞 平12年11月 晶文社

『神楽歌・催馬楽・梁塵秘抄・閑吟集』 白田甚五郎他校注

平12年12月 *小学館

『開館65周年記念尾張家初代義直生誕400年秋季特別展 徳川義直と文化サロン』 *徳川美術館 平12年9月

『東京大学国文学研究室蔵 古典籍目録』 *東京大学国文学研究室編 平12年6月

『Kotoba ("Sung" Speech) in Japanese Nô Theatre: Gender Distinctions in Structure and Performance』

*Zvika Serper 二〇〇〇年 Spring/Summer

SOCIETY FOR ASIAN MUSIC

『能がわかる100のキーワード』 津村禮次郎 平13年3月

平13年3月

平13年3月

平13年3月

『P. G. オニール論文集』 *P. G. O'Neill 平13年 *小学館

JAPAN LIBRARY Edition Synapse

『歌舞能の確立と展開』 *三宅晶子平13年2月 ペリかん社

『中世劇文学の研究—能と幸若舞曲』 小林健二 平13年2月 *三弥井書店

『THEATRE YEAR-BOOK 2000 Theatre Abroad』

*T.T.I. JAPAN CENTRE 平12年3月

『THEATRE YEAR-BOOK 2000 Theatre in Japan』

*T.T.I. JAPAN CENTRE 平12年3月

『あづさ』 宝生公恵 平13年2月 *あづさ会

『写楽 仮名の悲劇』 梅原猛昭 62年8月 新潮社 *表章

『桜木物語 大江戸写楽失踪事件』 山下実 平12年4月 三一書房 *表章

『写楽 大江戸の華』 羽里昌 徳島新聞社 平12年4月 *表章

『観世第六十七巻』 平成十二年 *檜書店

『宣言書(梅若問題)』 大10年7月 表章

『Japanese Theatre & the International Stage』

Stanca Scholz-Cionca, Samuel L. Leiter 平12年 BRILL *西野春雄

雑誌・紀要など(特記した以外は発行所からの寄贈)

誌名・号数・発行年・発行所、の順

I. T. INEWS 102号(平12) 国際演劇協会日本センター

青山語文 30号(平12) 青山学院大学日本文学会

跡見学園女子大学短期大学部紀要36号(平12) 同短期大学

梅若 329号(平12) 梅若会

演劇映像 41号(平12) 早稲田大学文学部演劇研究室

演劇博物館 82・83号(平12) 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

OAG NOTIZEN 1・2/2001(*須藤直子)

Deutsche Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde

岡大國文論稿 28号(平12) 岡山大学文学部国文科

会報 63号(平12) 片山九郎右衛門の会

学苑 727号(平12) 昭和女子大学近代文化研究所

学習院大学国語国文学会誌 43・44号(平12) 同大学文学部国語国文学研究室

金沢大学国語国文 26号(平12) 金沢大学国語国文学会

上方文化研究センター研究年報 1号 大阪女子大学上方文化研究センター

観世 67巻4号、68巻3号(平12、13) 檜書店

橘香 45巻1、12号(平12) 梅若研能会

汲古 37・38号(平12) 汲古書院

京都橘女子大学研究紀要26・27号 同大学研究紀要編集委員会

芸術新潮 6号(平12) 新潮社

芸能の科学 28号(平12) 東京国立文化財研究所

研究紀要 22巻1・2号(平12) 志學館大学

研究叢書 15号(平12) 青山学院大学総合研究所

- 光華日本文学 8号(平12) 光華女子大学日本文学会
 国語国文学 9号(平12) サントリー美術館
 目白学園女子短期大学国語国文科研究室
 国語国文研究 115・116号(平12) 北海道大学国語国文学会
 国際日本文学研究集会会議録第23回(平12) 国文学研究資料館
 国士館短期大学紀要 25号(平12) 同短期大学人文学会
 国文学 81・82号(平12) 関西大学国文学会
 国文学研究資料館紀要 26号(平12) 同資料館
 国文学研究資料館報 54・55号(平12) 同資料館
 国文学研究 130) 132号(平12) 早稲田大学国文学会
 国文学論集 33号(平12) 上智大学国文学会
 国文学論叢 46輯(平12) 龍谷大学国文学会
 国文学科紀要 17号(平12) 上智大学文学部国文学会
 国文目白 40号(平12) 日本女子大学国語国文学会
 国立能楽堂 200) 211号(平12) 13) 日本芸術文化振興会
 古典資料研究 1号(平12) 古典資料研究会(慶應義塾大学)
 語文 74) 76号(平12) 大阪大学国語国文学会
 駒沢短大國文 30・31号(平12) 駒沢短期大学国文科研究室
 駒沢国文 37号(平12) 駒沢大学文学部国文学研究室
 金剛 55卷2号・3号・56卷1号(平12) 13) 金剛雜誌会
 金春月報 21卷4号) 22卷3号(平12) 13) 金春月報編集部
 (シンポジウム) コンピューター国文学講演集第5回(平12)
 国文学研究資料館
 サントリー美術館ニュース 181) 186号(平12) 13)
 実践国文学 57・58号(平12) サントリー美術館
 実践女子大学文学部紀要42集(平12) 実践女子大学・短期大学
 実践女子大学文芸資料研究所年報19号(平12)
 実践女子大学文芸資料研究所別冊年報IV-2(平12)
 紫明 6号(平12) 同大学文芸資料研究所
 社会学部論集 33号(平12) 佛教大学社会学部
 十四世六平太記念財団広報5号(平12) 十四世六平太記念財団
 祥 9・10号(平12) 祥の会
 尚謡 96号(平12) 「尚謡」発行所
 女子大國文 127・128号(平12) 京都女子大学国文学会
 女子大文学 51号(平12) 大阪女子大学人文社会学部
 書陵部紀要 51号(平12) 宮内庁書陵部
 史論 54号(平12) 東京女子大学読史会
 史論 54号(平12) 東京女子大学読史会
 史論 54号(平12) (*菅原正子) 東京女子大学読史会
 新能楽ジャーナル 1) 4号(平12) たちばな出版
 人文科学研究所年報37) 39号(平12) 中央大学人文科学研究所
 相山国文学 24号(平12) 相山女子園大学国文学会
 成蹊国文 33号(平12) 成蹊大学文学部日本文学科
 聖母女学院短期大学研究紀要 27・28号(平13) 同大学
 仙台市博物館年報 27号(平12) 同博物館
 総合芸術としての能 6号(平12) 世阿弥学会

- 双鷺 53～55号(平12) 双鷺社
 大正演劇研究 8号(平12) (*伊藤真紀) 國學院大學国文学会
 明治大学大正演劇研究会 京都観世会館
 中央大学国文 44号(平12) 中央大学国文学会 能楽鑑賞教室 17号(平12) 日本芸術文化振興会
 筑波大学平家部会論集 8集(平12) 同部会 能楽タイムズ 577～588号(平12～13) 能楽書林
 帝塚山学院大学日本文学研究 32号(平12) 同大学日本文学会 文学の友 400～411号(平12～13) 能楽の友社
 銕仙 482～490号(平12～13) 銕仙会 文学 第一巻6号(平12) 岩波書店
 DEN 6～11号(平12～13) DEN編集室 文学史研究 40・41号(平12) 大阪市立大学人文社会学部
 伝統芸能 516～521号(平12～13) 伝統芸能懇話会 文学論藻 74号(平12) 東洋大学文学部国文学研究室
 東海能楽研究会年報 2～4号(平10～12) 同研究会 文学論叢 53・54号(平11～12) 大谷大学文芸学会
 東西南北 別冊 平13 和光大学総合文化研究所 文教大学国文 29号(平12) 文教大学国文学会
 東西南北(和光大学総合文化研究所年報)(平12) 同研究所 邦楽ジャーナル 169号(平13) 邦楽ジャーナル
 同志社国文学 53・54号(平12～13) 同志社大学国文学会 宝生 49巻4号～50巻3号(平12～13) わんや書店
 同朋大学仏教文化研究所紀要19号・CD-ROM(平12) 同研究所 比較文化研究所年報 16号(平12) 徳島文理大学比較文化研究所年報編集委員会
 同朋大学仏教文化研究所報 13号(平12) 同研究所 徳島女子学院大学総合研究所年報 4号(平12)
 名古屋芸能文化 10号(平12) 名古屋芸能文化会
 二松 14集(平12) 二松学舎大学大学院文学研究科 同大学総合研究所
 二松学舎大学東洋学研究所集刊 30集(平12) 同研究所 富士論叢 45巻1号(平12) 富士短期大学学術研究会
 二松学舎大学論集 43号(平12) 同大学文学部 文学部論集 84号(平12) 仏教大学文学部
 日本研究 20集(平12) 国際日本文化研究センター 文献ジャーナル40巻6冊最終号(平12) 富士短期大学出版部
 日本古典文学会々報 132号(平12) 日本古典文学会 文林 34号(平12) 神戸松陰女子学院大学学術研究会
 日本文学研究年誌 9・10号(平12) 金沢学院大学日本文学研究室 別府大学国語国文学 41号(平12) 別府大学国語国文学会
 日本文学ノート 36号(平13) 宮城学院女子大学日本文学会 まくあい19号(平12) 大阪大学文学部芸能史・演劇学研究室
 待兼山論叢 34号(平12) 大阪大学文学部 大阪大学文学部

- 武蔵野女子大学能楽資料センター紀要11号(平12)同センター
目白学園女子短期大学研究紀要 37号(平12) 同短期大学
山辺道 44・45号(平12) 天理大学国語国文学会
『養成プログラムー演劇の再生』1999シアタートーク(平12)
国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター
立教大学日本文学 84・85号(平12) 同大学日本文学会
緑岡詞林 24号(平12) 青山学院大学日文院生の会